

西東京市放課後子供教室の あり方について（令和7年度報告）

西東京市放課後子供教室あり方検討委員会

令和8年3月

目次

1	はじめに	2
2	西東京市における放課後子供教室の現状と課題.....	2
3	西東京市における放課後子供教室のあり方について.....	3
4	新たな運営体制の導入を検討すべき地域の要件.....	4
5	西東京市放課後子供教室あり方検討委員会の委員名簿.....	5
6	検討経過	6
【資料】		
1	放課後子供教室アンケート調査.....	8
2	各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表.....	13
3	令和7年度における開催状況と学校近隣の主な子どもの居場所等について.....	15

1 はじめに

放課後子供教室とは、放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して、全ての児童生徒等の安心・安全な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等の支援活動を行うことを目的とした事業である。

西東京市放課後子供教室について、利用者へのアンケートや現場の意見聴取等の調査結果を踏まえ、今後の基本的な考え方に關し、以下の通り整理した。

【西東京市放課後子供教室のあり方について基本的な考え方】

- ◎ 校庭や体育館の開放について、平日を中心とした開催日の拡充及び平準化を図り、1日でも多くの開催を目指す。
- ◎ 開催日数の拡充に際し地域人材による現体制では難しい場合において、民間事業者の導入を検討する。導入にあたっては、学校との連携・協働のもと、各小学校施設開放運営協議会と調整を図る。
- ◎ 運営体制の変更の有無に関わらず、地域における住民の参画を引き続き行う。

2 西東京市における放課後子供教室の現状と課題

(1) 学校間において開催回数に差が生じている

放課後子供教室（校庭等開放及び学習活動の機会提供）の開催回数は、市立小学校によって差がある。週5日の開催をしている学校がある一方、月に数回の開催にとどまる学校もあり、地域ごとに差が生じている。

(2) 地域協力者の確保が困難である

本事業は、地域住民の参画という趣旨を踏まえ、地域のつながりによって人材確保に努めているところである。しかしながら、昨今共働き世帯も増え、現役の保護者などからの継続的な協力は得にくい傾向にある。今後も放課後子供教室事業を実施していくためには、継続的な担い手の確保が必要不可欠である。

(3) 各運協について運営体制に差がある

地域のボランティア組織である学校施設開放運営協議会（以下、「運協」という。）は、地域特性や組織体制、人材等の状況は様々である。放課後子供教室事業の市内全域での平準化を目指すにあたっては、安定的かつ継続性のある運営体制の構築を検討する必要がある。

3 西東京市における放課後子供教室のあり方について

本委員会での検討内容を踏まえ、以下の3点を今後における本市の放課後子供教室事業の基本的な考え方とする。

(1) 市立小学校における開催回数の平準化を図る

アンケート調査より、平日の利用ニーズが高いことを受け、まずは平日を中心とした、開催日の拡充及び平準化を図り、1日でも多くの開催を目指す。また、ボールが使用できる自由な遊び場として校庭や体育館の開放の拡充に努める。なお、平準化を目指すにあたっては、一斉の拡充ではなく段階的な対応を取る等、各学校の現況や地域の状況を考慮しながら対応を図っていくことが必要である。

(2) 必要に応じて新たな運営体制の導入を行う

開催日数の拡充や市内全域での平準化を目指すうえで新たな人材を要する地域においては、民間事業者の導入も視野に入れて検討を行う。

今般、各運協へのヒアリングを行い、運営に対する考え方や方向性について運協ごとに整理をした。民間事業者への委託を検討するにあたっては、各運協の意向を踏まえ、また、学校との連携・協働により学校施設を有効活用しながら、丁寧に調整を進めていくことが必要である。

(3) 引き続き地域住民の参画を得ながら事業を実施する

放課後子供教室の趣旨を踏まえ、民間事業者に委託する場合であっても、引き続き地域住民の幅広い参画が得られるよう地域の状況を勘案しながら調整を図っていく。

【民間事業者導入の場合における地域住民の参画のあり方の例】

- ・ 事業者と学校及び地域とをつなぐコーディネーターの役割に地域の方を配置する
- ・ 校庭等の開放の見守りについて引き続き地域の方々が担う形を取り入れる
- ・ 学習活動の機会提供について地域の方に講師を依頼する など

4 新たな運営体制の導入を検討すべき地域の要件

新たな運営体制の導入にあたっては、モデル校の設置から始める等、地域ごとの状況や導入後の効果検証を行いながら、段階的に移行することが適切である。なお、導入を検討する際は、以下の要件に基づき、導入する地域の選定を進める。

(1) 校庭・体育館開放の開催頻度

市立小学校での平準化を目指すうえで、開催回数が現状少ない地域に対し新たな運営体制の導入を検討する。

(2) 運協における民間事業者への委託移行についての意向

放課後子供教室は、地域と学校が連携・協働して放課後等の支援活動を行うことを目的としており、現在事業を支えている各運協において、民間事業者の導入の意向がある地域から選定する。

(3) 校区内の学童クラブの状況

本市における学童クラブの過密化対策は喫緊の課題であり、放課後子供教室の拡充は子どもの放課後の過ごし方の選択肢を広げ、過密化緩和の一助としても期待される場所である。放課後子供教室と学童クラブにおける各々の趣旨や目的を認識しながら、学童クラブの過密化率がより高い地域について、放課後子供教室の民間事業者導入を検討する。

(4) 近隣に公園や児童館等の公共の子どもの居場所があるか

学校近隣や周辺における公共の子どもの居場所の有無についても重要なポイントであり、ボール遊びができる場所の存在等を考慮のうえ、比較的少ない地域において導入を検討する。

5 西東京市放課後子供教室あり方検討委員会の委員名簿

◎座長 ○副座長

区 分		氏 名	所 属
社会教育委員	学識経験者	◎川原 健太郎	作新学院大学准教授
小学校長		○伊藤 正明	谷戸小学校校長
		新濱 英貴	碧山小学校校長
社会教育委員	放課後子供 教室関係者	河野 美晴	中原小学校 学校施設開放運営協議会会長
放課後子供教室関係者		渡辺 昌美	谷戸第二小学校 学校施設開放管理者
学童クラブ関係者		飯海 優	けやき学童クラブ指導員
西東京市NPO等 市民活動団体関係者		小松 真弓	市民協働推進センター ゆめこらぼ
西東京市職員		門倉 利明	企画部企画政策課長
西東京市職員		福所 良幸	子ども若者部児童青少年課長
西東京市職員		坂本 義隆 (第4回まで) 飯島 陽子 (第5回から)	教育部教育企画課長

6 検討経過

回次	開催日	内容
第1回	令和7年 5月26日(月)	座長・副座長の選出 現状と課題の整理
第2回	6月30日(月)	利用者へのアンケート調査の項目選定
—	7月18日(金)から 7月31日(木)まで	市立小学校に通う第2・4・6学年の児童およびその 保護者へのアンケート調査の実施
第3回	8月19日(火)	アンケート調査結果を踏まえ、あり方(案)の検討
第4回	9月29日(月)	他自治体への視察
第5回	10月27日(月)	視察を踏まえ、あり方(案)の検討
—	10月から 12月まで	各運協へのヒアリング調査の実施
第6回	11月20日(木)	各運協へのヒアリングを踏まえ、あり方(案)の検討
第7回	12月15日(月)	各運協へのヒアリングを踏まえ、あり方(案)の検討
第8回	令和8年 1月26日(月)	あり方(案)の最終確認

【資料】

- 1 放課後子供教室アンケート調査
- 2 各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表
- 3 令和7年度における開催状況と学校近隣の主な子どもの居場所等について

1 放課後子供教室アンケート調査

(1) アンケート調査実施概要

実施期間：令和7年7月18日～7月31日

対象者：市立小学校18校の第2・4・6学年の子どもとその保護者

対象児童数：4,847名（「児童数・学級数状況表」令和7年6月1日現在）

調査方法：Logo フォームによるインターネット調査

回答者数：1,050名

調査概要：現在の利用頻度や認知度、今後におけるニーズなど

保護者と子どもの両方の意見を聴取できるよう項目を配慮

(2) アンケート調査設問項目

令和7年度実施 放課後子供教室 アンケート構成

No.	設問	選択肢	
リード文	<p>西東京市では現在、校庭・体育館開放や工作・スポーツ教室等学習活動の機会提供プログラムを行っている「放課後子供教室」について、今後のあり方を検討しています。</p> <p>本アンケートは、本市の小学校に通うお子さん及び保護者の方に、本市が実施している放課後子供教室についてお伺いし、あり方を検討する上で参考にさせていただきたく実施するものです。（設問数：8～12問）</p> <p>※お子さんに向けた設問については、保護者の方から、できる範囲でお子さんのお声を聞いて入力いただけますよう、ご協力をお願いいたします。</p> <p>※ご世帯で複数のお子さんが小学校に通学している場合は、お手数ですが1名ずつの回答にご協力いただけますよう、お願いいたします。</p>		
基礎情報	Q1	お子さんが通う学校名を教えてください。	(1)田無小学校～(18)けやき小学校
	Q2	お子さんの学年を教えてください(お子さんが複数いらっしゃる場合は複数選択してください。)	(1)小学2年生 (2)小学4年生 (3)小学6年生
認知度	Q3	(保護者の方へ)放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を知っていましたか。	(1)校庭・体育館開放だけ知っていた (2)学習活動の機会提供プログラムだけ知っていた (3)校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラムの両方とも知っていた (4)校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラムの両方とも知らなかった
	Q4	(お子さんへ)放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を知っていましたか。	(1)校庭・体育館開放だけ知っていた (2)学習活動の機会提供プログラムだけ知っていた (3)校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラムの両方とも知っていた (4)校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラムの両方とも知らなかった

※Q5以降については9ページ。

現 状	Q5	(お子さんへ) 放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を利用したことがありますか。(いずれか一つでもある場合は「(1)ある」をお選びください)	(1)ある(Q5-1とQ5-2へ) (2)ない(Q5-3へ)
	Q5-1	(お子さんへ) 放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を利用したことがある場合、どのくらいの頻度で利用していますか。	(1)週3回以上 (2)週1～2回程度 (3)月1回程度 (4)数か月に1回程度
	Q5-2	(お子さんへ) 放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を利用したことがある場合、平日・土日祝日のどちらを主に利用していますか。	(1)主に平日 (2)主に土日祝日 (3)平日・土日祝日の両方
	Q5-3	(お子さんへ) 放課後子供教室(校庭・体育館開放および学習活動の機会提供プログラム)を利用したことがない場合、利用しない理由を教えてください。	(1)学童クラブに通所しているから (2)習い事や家にいるなど、他に過ごす場所があるから (3)在籍している小学校では放課後子供教室を開催していない日があるから (4)放課後子供教室のことがよくわからないから (5)遊具がない等、不満点があるから (6)参加したいプログラムがないから (7)その他(理由:)
二 ー ズ	Q6	(お子さんへ) 今後(これからも)、放課後子供教室に行ってみたくと思いますか。	(1)今後(これからも)行きたい(友達がいれば、遊具があれば等、条件付きを含む)(Q6-1、6-2、6-3へ) (2)今後(これからも)行きたくない(Q6-4へ)
	Q6-1	(お子さんへ) 今後(これからも)放課後子供教室に行きたいと思う場合、どの内容に行きたいと思いますか。	(1)校庭・体育館開放 (2)学習活動の機会提供プログラム (3)校庭・体育館開放、学習活動の機会提供プログラムの両方
	Q6-2	(お子さんへ) 今後(これからも)放課後子供教室に行きたいと思う場合、主にいつ行きたいと思いますか。	(1)主に平日(理由:) (2)主に土日祝日(理由:) (3)平日・土日祝日の両方(理由:)
	Q6-3	Q6-2で選んだ回答の理由	
	Q6-4	(お子さんへ) 今後、放課後子供教室に行ってみたくと思わない場合、その理由を教えてください。	(1)今後も学童クラブに通所するから (2)今後も、習い事や家にいるなど、他に過ごす場所があるから (3)在籍している小学校では放課後子供教室を開催していない日があるから (4)放課後子供教室のことがよくわからないから (5)遊具がない等、不満点があるから (6)参加したいプログラムがないから (7)その他(理由:)
フ リ ー 意 見	Q7	(保護者の方へ) 放課後子供教室や、放課後の子どもの居場所について、ご意見やお考えがあれば教えてください。	自由記載
	Q8	(お子さんへ) 放課後子供教室や、放課後の子どもの居場所について、ご意見やお考えがあれば教えてください。	自由記載
結 び 文	貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。 本市における放課後子供教室事業の今後のあり方を検討する上で、参考にさせていただきます。		

(3) アンケート調査集計結果

放課後子供教室の利用に関するアンケート調査集計結果

現状の把握

Q5 利用したことがあるか	2年	4年	6年
(1) ある	198件 (51%)	232件 (62%)	154件 (54%)
(2) ない	193件 (49%)	141件 (38%)	132件 (46%)

※どの学年も5割以上の方が利用経験あり

Q5-1 どのくらいの頻度で利用しているか	2年	4年	6年
(1) 週3回以上	0件 (0%)	5件 (2%)	5件 (3%)
(2) 週1～2回程度	52件 (26%)	44件 (19%)	19件 (12%)
(3) 月1回程度	66件 (33%)	59件 (25%)	22件 (14%)
(4) 数か月に1回程度	80件 (40%)	124件 (53%)	108件 (70%)

Q5-2 平日・土日祝日のどちらを利用しているか	2年	4年	6年
(1) 主に平日	137件 (69%)	167件 (72%)	108件 (70%)
(2) 主に土日祝日	37件 (19%)	42件 (18%)	30件 (19%)
(3) 平日・土日祝日の両方	24件 (12%)	23件 (10%)	16件 (10%)

※平日に参加している児童が多い

ニーズの調査

Q6 今後（これからも）行ってみたいか	2年	4年	6年
(1) 行きたい	325件 (83%)	304件 (82%)	168件 (59%)
(2) 行きたくない	66件 (17%)	69件 (18%)	118件 (41%)

※利用の意向は高い

Q6-1 今後、行きたい場合の参加したい内容	2年	4年	6年
(1) 校庭・体育館開放	113件 (35%)	130件 (43%)	91件 (54%)
(2) 学習活動の機会提供プログラム	39件 (12%)	38件 (13%)	21件 (13%)
(3) (1)、(2)の両方	173件 (53%)	136件 (45%)	56件 (33%)

※高学年になるにつれて学習プログラムのニーズは低くなる

※「校庭・体育館開放」は全学年でニーズが高い

Q6-2 今後いつ行きたいか	2年	4年	6年
(1) 主に平日	202件 (62%)	201件 (66%)	99件 (59%)
(2) 主に土日祝日	34件 (10%)	31件 (10%)	30件 (18%)
(3) 平日・土日祝日の両方	89件 (27%)	72件 (24%)	39件 (23%)

※全ての学年で「平日」の利用希望が一番高い

※全ての学年で「平日・土日祝日の両方」が増加した

子どもからの自由意見（18校全体）

放課後子供教室全般に関する意見

存在意義	長い時間友達と遊べる放課後は嬉しい、友達と思いっきり身体を動かして遊びたい	12人
	学校で友達と遊べて楽しい	6人
	学校だと安心して過ごせる	4人
ハード面（開催日等）での要望	家に帰らずそのまま使えるようにしてほしい	14人
	学校で遊べる時間が増えてほしい（日数を増やしてほしい）	10人
	プールを使いたい	2人
自由な意見	お菓子を食べてもよいとなってほしい	1人
	参加するたびにもらえるポイントとかでお菓子とかと交換できたら嬉しい	1人
	利用制限を極力なくしてみんな使えたらいい	1人
課題	何をするとところかよくわからない	4人
	学童・児童館・ルピナス以外の遊び場が欲しい、ルピナスは遊びづらい	4人

体育館・図書館・自習室開放に関する意見

開放に関する こと	体育館開放を増やしてほしい	13人
	室内ですごせる場所（自習室や図書室）、勉強できる場所を増やしてほしい	13人
	雨の日や暑さで校庭が使えない時は代わりに体育館を使えてほしい	3人
	冷暖房が常備されているところで遊びたい	2人
時期に関する こと	夏休みなどの長期休みのときも開放をしてほしい（工作や勉強がしたい）	1人
その他の意見	宿題ができてうれしい	1人
	土曜日の体育館はバスケットがたくさんいてほかの遊びができない	1人

校庭開放に関する意見

好意的な意見	ボールを使える場所だから嬉しい、野球やサッカーといったボール遊びがしたい	18人
	友達と遊べて楽しいからこれからも校庭開放を参加し続けたい	6人
	土日にも遊べて嬉しい	1人
開放日数や時間に関する こと	校庭開放の日数を増やしてほしい	6人
	平日もやってほしい	2人
	校庭開放はもう少し時間を長くしてほしい	1人
遊具に関する こと	遊具をふやしてほしい、使える遊具が少ない	5人
	自分のボールも使えるようになってほしい（軟式ボール、サッカーボール）	2人
	壁当てとか野球の練習ができるといい	1人
	校庭開放の道具を学童の人であっても使いたい	1人

体験・交流活動（学習プログラム）に関する意見

開催頻度に関する こと	学習プログラムは授業とはまた違って楽しいから、学習プログラムを増やしてほしい	11人
内容に関する こと	お絵描き、工作、折り紙がしたいといった手先を使う教室がしたい	6人
	楽器体験は楽しかったのでまたやりたい	1人
	マジック教室が楽しかったのでまたやりたい	1人
	高学年向けのプログラムもやってほしい	1人

※自由意見回答者数 144人（重複回答あり）

保護者からの自由意見（18校全体）

放課後子供教室全般に関する意見

存在意義	学校だと安心だし、見守りのなかで過ごせるのはありがたい	102人
	学童に通えない子や高学年の居場所として放課後子供教室があるとありがたい	39人
	色々な経験ができてとても良いのでぜひ放課後子供教室はつづけてほしい	17人
ハード面（開催日等）での要望	帰宅せずにそのまま利用できるようになってほしい	41人
	夏休みなどの長期休みのときも開放をしてほしい	7人
	曜日固定でなくいろいろな曜日でやってほしい	1人
ソフト面での要望	メールやすぐるなどで活動予定日や内容、利用状況などを周知してほしい（場所や詳細、開催している様子がわかれば利用したい）	14人
	暑さなどで急速閉鎖した場合に確認できるものがあるとありがたい	6人
	自分の子供が利用しているのかといった、入退室がわかるとありがたい	4人
セキュリティ面	セキュリティ面が心配	4人
	身元のしっかりした人に見守りをしてほしい	3人
	なにかあった時の対応がどうなるのか不安	1人
運営負担への懸念	放課後子供教室運営担当が大変だった	3人
	運営する人（保護者）たちの負担が大きくなるようなら増やさないほうがよい	2人
	開放することで学校の先生たちの負担になるのであれば増やさなくてもいいと思う	1人

体育館・図書館・自習室開放に関する意見

開放に関する こと	暑い日や雨の日は校庭でなくて体育館開放や自習室の開放をしてほしい	36人
	図書館や自習室開放を行ってほしい（天候に左右されないといい、静かなところ）	25人

※自由意見回答者数 359人（重複回答あり）

校庭開放に関する意見

存在意義	家でなく外で子供たちだけでボールを使ったりして遊べる場所が少ないのでありがたい	39人
開放日数に関する こと	もっと校庭開放の日数を増やしてほしい	43人
	平日に利用できるようになってほしい、頻度を増やしてほしい	8人
	土日も開放してほしい	2人
その他の意見	禁止事項や注意事項が多い	4人
	朝の校庭開放も行ってほしい	3人
	もっと遊具を増やしてほしい	1人

体験・交流活動（学習プログラム）に関する意見

開催頻度に関する こと	学習や体験プログラムをもっとやってほしい、学習プログラムを月1でもよいからやってほしい	14人
	夏休みとかに学習プログラムがあるとありがたい	1人
内容に関する こと	漢字教室、英語教室、算数教室、工作教室、マジック教室といった多様なプログラムがあるとよい	9人
	ダンスや鬼ごっこのような大勢で身体を動かすプログラムもやってほしい	2人
	スポーツ教室などの身体を動かすプログラムも増やしてほしい	1人
	学年問わず工作教室など利用できると良い	1人
その他の意見	学習プログラムは授業とは違う視点で良い	2人
	多少費用が掛かったとしても習い事のように行ける場所があるとよい	1人

学童・児童館・周辺施設に関する意見

その他の意見	学童は人が多すぎて子供が嫌がるため、放課後子供教室は必要だ	5人
	学童・児童館を増やしてほしい、広くしてほしい	4人

2 各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表

各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表

◎ヒアリングについて
 ・令和7年10月～令和7年12月
 ・各運営協会長、各小学校施設開放管理者、サポーターと対面により聞き取り

	①校庭開放について				②学習プログラムについて		③運営体制について		④民間導入について		⑤やりがいについて
	令和7年度実施頻度 (回数・曜日)	現状における校庭開放の 負担感について	平日週5日間 開放する場合 負担感あり→○ 負担感なし→×	平日週5日間 開放する場合の課題	現在の学習プログラ ムの実施について 負担感あり→○ 負担感なし→×	理由	現運営体制の 継続についての課題	所見・背景等	民間委託に 関する考え	所見・背景等	放課後子供教室を運営する上での やりがい
運協A	週1日 (水)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	×	やりがいを感じながら実施できているため。内容を考えるのは難しく、英語教室などは学校の先生と相談しながら内容を決めている。	担い手不足	基本的に保護者OBOGで成り立っている。この層がいなくなると厳しい。	導入希望あり (共同実施)	学習プログラムの実施にやりがいを感じている一方、校庭開放の実施において、民間導入をするのはいいと考える。導入方法は色々あるにしても、民間業者と連携のやりがいことのすり合わせができるようにしたい。あらかじめ事業を分けるのも1つの策であると考え。(校庭開放は民間、体験活動は連携)	開催すると50名来てくれてやりがいがある。子供たちからパワーをもらえる。リピーターが来てくれると嬉しい。
運協B	週1日 (水もしくは日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保 (ただ、過去に週5日間開放の実績があるが近くに大きな公園があるため参加者が来なかった)	×	現状維持であれば負担はないため。	担い手不足	人手不足を感じている。現役の保護者は5名。学校に在籍している方がいなくなったら厳しい。	導入希望あり (共同実施)	今後も地域の協力として携わっていきたい。遠征しないように民間業者とのすみ分けができるようにしてほしい。	子どもと関わると元気になる。子どもの発想から学ぶこともある。自分のことを覚えてくれると嬉しい。
運協C	週1.5日 (水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	現体制では実施できる。今後は担い手不足が課題となるだろう。	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	スタッフの体制が整うかが課題である。	導入希望あり (共同実施)	現在の体制では実施できない部分を民間活用に補ってもらえるといい。	子ども達と顔見知りになれることが嬉しい。現役時代に地域に貢献できなかったため、現在還元に努めている。
運協D	週1.5日 (土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	事前準備が大変であるため。調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	現時点で 導入希望なし (いずれは検討)	地域の方ではない方が子どもを見守ることへの不安はある。現在の体制で継続できるまでは反対だが、いずれは共同実施も考えたい。	地域の子供たちや保護者と関わりが持て、成長が見られること。子どもの居場所になっていることへの使命感がやりがいを感じる。使命感を持って取り組むことができること。
運協E	週2日 (水・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保。 ボランティア感覚では平日5日間は無理だと思う。	○	事前準備が大変であるため。人手不足(事前準備を行うことが難しい)。	担い手不足	人手不足であるため、長期的ことを考えるのは難しい。新しい人を募集するのが難しい。	導入希望あり (共同実施)	民間活力導入後も地域の人たちが必ず入る形をお願したい。民間活力導入後も継続して関わってほしい。	子どもと関わること。小さいところから大きくなっていく様子をみるのが楽しい。従事者としては大人になってからの仲間・友達ができることが嬉しい。また大人の居場所にもなっている。
運協F	週2日 (水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	活動を減らせば継続できる。活動増えれば継続は難しい。キーパーソンがいなくなると続かない。	現時点で 導入希望なし	運営と民間業者の2つがあると制度上よくわからなくなる。現在は、使命感を持って活動に携わっている協力者もいるため、当協議会としては民間委託を望まない。	子どもと顔をみるのとやっていると嬉しい。
運協G	週2.5日 (水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	×	来年度より平日週5日間開催予定 (水曜日はランドセルのままOK)	×	やりがいを感じながら実施できているため。一方で、スペースの調整には苦慮している。	担い手不足	今のところできているが、協力者不足が課題である。基本的に管理者と会長の2人で運営を行っており、事務補助がほしいと感じる。	導入希望あり (共同実施)	同じ方向を向いて、牽引して事務を行ってくださる方がありがたいので、民間導入するのは賛成。今後も放課後子供教室には地域の協力として携わってほしい。	子どもたちが楽しんでいる姿、ニコニコしている姿。会ったら声かけてくれることなどが嬉しい。色々な世代の保護者と関われるのも楽しい。やりがいはとてもある。
運協H	週2.5日 (水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	場所の確保 (施設の調整上ほかの曜日の実施が難しい(学童や使用団体との調整))	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	現時点で 導入希望なし	地域の子供は地域で見守ることに意義を感じているため、いまのところ民間委託については考えられない。学校とのやりとりも現状うまくいっている。	小学生が近寄ってきてくれるのがうれしい。町で会った時にあいさつしてくれるのが嬉しいと感じる。

運協I	週3日 (水・土・日)	人手が不足しているため負担感を感じている。	○	担い手の確保	○	ノウハウがないため。 講師謝金が低く、依頼がしにくいと考えるため。	担い手不足	人手不足であるため、長期のことを考えるのは難しい。	導入希望あり (共同実施)	民間委託導入の場合は一括してやっていた方がいい。安定かつ継続性を求めるなら賛成である。 導入の場合でも、できれば地域の協力者として携わってほしい。	子どもの成長を見られる。サポーターたちも放課活動の意義を感じてもらえているように嬉しい。
運協J	週3日 (月・水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保 (ただし、遠征に木曜日以外開放した実績があるが近くに公園があるため参加者が来なかった) 現体制でもできそうではある。	×	現状維持であれば負担はないため。 学年毎に下校時間が異なる曜日に学習プログラムを実施しており、子どもの受け入れ時間が異なるため対応が忙しくなる。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、主要メンバーがいなくなると継続は難しい。	現時点で 導入希望なし (いずれは検討)	現状では必要性を感じていない。別の学校で必要があれば入れるといい。 民間活力を導入する場合は完全委託のほうがいいと思う。	子供と関われるのが嬉しい。地域と子供たちが顔見知りの関係になれることに必要性を感じている。
運協K	週3.5日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、サポーターが高齢なため後継者を探す必要がある。	導入希望あり (共同実施)	開放日数を増やす目的で民間導入することは子供たちのことを考えるといいことなのではないかと思う。そのうえで地域の方たちの参加についてもバランスをとりながら民間業者と協力して行えたいと思う。	子どもたちが楽しそうにしている姿、家族連れが週末まで過ごしている姿を見るのが嬉しい。
運協L	週3.5日 (月・水・金・土)	現体制で週5日に定期的にサポーターを配置しており、負担を感じていない	×	担い手が不足する可能性がある。	○	ノウハウがないため。 現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	現在の運営体制には課題はないが、少人数で実施しており、後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	現時点で 導入希望なし (一部検討)	校庭開放については現体制で平日週5日開催しているため民間活力の導入の必要性を感じていないが、学習プログラムは実施できていないため、学習プログラムに民間活力を導入されることいい。	参加者から実施してくれて助かると言われた。子供たちの様子を見られるのが嬉しい。放課後子供教室に携わることが自身の生きがいに なっている。
運協M	週4日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。 講師謝金が低く、依頼がしにくいと考えるため。	担い手不足	今の体制でギリギリ実施できていると感じる。	導入希望あり (完全委託)	現状の体制では平日週5日の開放はできないので、民間委託を導入することにより、利用者の要望に応えることができるのではと思う。	子どもたちと関わることが楽しい。
運協N	週4日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	場所の確保 (施設の調整しほかの曜日の実施が難しい(使用団体との調整))	○	ノウハウがないため。 現状、自主的な企画と実施はできていない。	特になし	このままの体制では継続性があると考える。	導入希望あり (共同実施)	週5日開催や学習プログラムの実施全てを現在の体制で実施するのは難しいと考えるため、民間活力の導入は賛成である。 一方で、地域の方ではない方が子どもを見守ることへの不安はある。	子供の成長が見られること、町で声をかけてくれるのが嬉しい。地域とのつながりを実感できるところ。
運協O	週5日 (月・火・水・木・金)	協力者が多く、皆ができるときにできる活動をしており、負担を感じていない。	×		×	やりがいを感じながら実施できているため。協力者が多かった。	担い手不足	現在の運営体制には課題はないが、長期的に見ると、主要メンバーの業務量に偏りがある状況であり、その方がいなくなっても活動が継続できる体制を考える必要がある。	現時点で 導入希望なし	校庭開放も平日週5日開催しており、学習プログラムも地域の方それぞれ長所を活かしながら、負担なく楽しく活動しており、新たな活力導入の意義を感じていないため。	子供の成長がみられることにやりがいを感じている。 大人としても放課後子供教室は地味活動の入り口のような役割を担っており、この活動を通してほかの地域活動に繋げていくことができる。
運協P	週5.5日 (月・火・水・木・金・日)	人手不足等もないため開催できている。	×		○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	多くの大学生がサポートしてくれているが、新たな方が加わらず、現在の方が受験や就職で参加できなくなると厳しい。	導入希望あり (共同実施)	新しい風が入ることや開放が毎日あることは良いことだと思う。 ただ、今後も地域の協力として携わってほしい。	子どもと接することが楽しい。成長を見られたり、刺激をもらえたりして嬉しい。
運協Q	週5.5日 (月・火・水・金・土・日)	協力者が多く、皆ができるときにできる活動をしており、負担を感じていない。	×		×	現状維持であれば負担はないため。	特になし	このままの体制では継続性があると考える。	現時点で 導入希望なし	校庭開放も平日週5日開催しており、学習プログラムも地域の方それぞれ長所を活かしながら、実施しており、新たな活力導入の意義を感じていないため。	子供の成長が見られるのが嬉しい。企画したことが実施できたことへの達成感がある。
運協R	週6日 (月・火・水・金・土・日)	皆ができるときにできる活動をしており、負担を感じていない。	×		×	依頼先等への調整は大変だが、負担ではない。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、サポーターが高齢なため後継者を探す必要がある。	現時点で 導入希望なし (いずれは検討)	子どもたちも現サポーターも互いに顔見知りであり、安全安心な体制であると考えられる。現在の体制でできるところまで継続し、いずれは民間事業者との共同実施ができればよい。	子供の成長が見られるのが嬉しい。

3 令和7年度における開催状況と学校近隣の主な子どもの居場所等について

令和7年度放課後子供教室の開催状況と各小学校における近隣の主な子供の居場所等について

※令和7年11月末時点の実績

No.	学校名	現在の校庭・体育館等開放 (1週間あたりの開催日数)		近隣における学校以外の子どもたちの居場所 児童館や児童センターまで	近隣におけるボールを使える場所
		平日	土日・祝		
1	田無小学校	週1日	0日	田無児童館 まで 300m (徒歩4分)	—
2	保谷小学校	週1日	週1.5日	—	泉小わくわく公園 まで 450m (徒歩6分)
3	保谷第一小学校	週4.5日	週1日	下保谷児童館 まで 800m (徒歩11分)	ひば北わんぱく公園 まで 850m (徒歩12分)
4	保谷第二小学校	週1日	週1日	田無柳沢児童センター まで 450m (徒歩6分)	むくのき公園 まで 800m (徒歩11分)
5	谷戸小学校	週2日	週2日	北原児童館 まで 950m (徒歩13分)	いこいの森公園 まで 50m (徒歩1分)
6	東伏見小学校	週2日	週1日	保谷柳沢児童館 まで 850m (徒歩11分)	むくのき公園 まで 850m (徒歩12分)
7	中原小学校	0日	週1.5日	ひばり児童センター まで 50m (徒歩1分)	いこいの森公園 まで 700m (徒歩10分)
8	向台小学校	週1日	週2日	新町児童館 まで 1.3km (徒歩20分)	柳沢児童広場 まで 1km (徒歩15分)
9	碧山小学校	週1日	週1日	中町児童館 まで 300m (徒歩5分)	—
10	芝久保小学校	週4日	週1.5日	芝久保児童館 まで 700m (徒歩10分) 田無児童館 まで 1.5km (徒歩20分)	芝三ふれあい公園 まで 600m (徒歩8分)
11	栄小学校	週4日	週2日	ひば北児童センター まで 400m (徒歩6分) 下保谷児童センター まで 1.4km (徒歩20分)	ひば北わんぱく公園 まで 350m (徒歩6分)
12	谷戸第二小学校	週1日	週1.5日	北原児童館 まで 1km (徒歩13分) ひばり児童センター まで 1.2km (徒歩16分)	いこいの森公園 まで 600m (徒歩8分)
13	東小学校	週0.5日	週0.5日	中町児童館 まで 700m (徒歩10分) 下保谷児童センター まで 1.1km (徒歩15分)	—
14	柳沢小学校	週1日	週0.5日	田無柳沢児童センター まで 150m (徒歩3分)	柳沢児童広場 まで 800m (徒歩11分) むくのき公園 まで 1km (徒歩15分)
15	上向台小学校	週3日	週0.5日	芝久保児童館 まで 600m (徒歩8分)	—
16	本町小学校	週2日	週2日	北原児童館 まで 1.2km (徒歩16分) 中町児童館 まで 1.5km (徒歩20分)	—
17	住吉小学校	週2日	週1.5日	下保谷児童センター まで 1.4km (徒歩19分)	泉小わくわく公園 まで 600m (徒歩9分)
18	けやき小学校	週5日	0日	西原北児童館 まで 500m (徒歩7分) 田無児童館 まで 1.6km (徒歩21分)	—

※色付けの基準

週2.5日以下

近隣にない or 徒歩10分以上

近隣にない or 徒歩10分以上